

学科新設などの大学改革が 高校生の志願度に影響

リクルート進学総研では2008年から毎年、高校生から見た「大学ブランド力調査」を実施。高校3年生の4月時点での「志願したい大学」を、エリアごとにランキングしています。今年志望順位が上がっている大学とはどのような特徴をもっているのか、分析しました。

リクルート進学総研 研究員 牧田綾子

高校生に聞いた 関東・東海・関西エリアの志願したい大学ランキング2014

関東エリア				東海エリア				関西エリア			
順位	学校名	区分	志願度(%)	順位	学校名	区分	志願度(%)	順位	学校名	区分	志願度(%)
1	(1) 明治大学	私	13.1	1	(2) 名城大学	私	9.6	1	(1) 関西大学	私	14.3
2	(2) 早稲田大学	私	12.3	2	(1) 名古屋大学	国	9.5	2	(2) 近畿大学	私	12.5
3	(3) 青山学院大学	私	8.5	3	(4) 中京大学	私	9.1	3	(3) 関西学院大学	私	8.5
4	(4) 日本大学	私	8.0	4	(3) 南山大学	私	7.7	4	(4) 神戸大学	国	8.4
5	(5) 立教大学	私	7.9	5	(5) 岐阜大学	国	6.6	5	(5) 大阪市立大学	公	8.1
6	(6) 法政大学	私	6.7	6	(7) 愛知大学	私	6.3	5	(6) 同志社大学	私	8.1
7	(7) 慶應義塾大学	私	6.4	7	(9) 三重大学	国	6.2	7	(7) 立命館大学	私	7.6
8	(9) 中央大学	私	5.2	8	(11) 静岡大学	国	6.1	8	(8) 大阪大学	国	6.6
9	(11) 上智大学	私	4.8	8	(8) 名古屋市立大学	公	6.1	9	(11) 大阪府立大学	公	5.4
9	(8) 東洋大学	私	4.8	10	(9) 愛知学院大学	私	5.6	9	(9) 龍谷大学	私	5.4
11	(10) 千葉大学	国	4.3	11	(5) 名古屋工業大学	国	5.5	11	(10) 甲南大学	私	3.9
12	(12) 東京理科大学	私	3.6	12	(12) 愛知県立大学	公	4.8	12	(12) 関西外国語大学	私	3.8
13	(14) 首都大学東京	公	3.4	13	(12) 中部大学	私	4.7	13	(14) 京都大学	国	3.2
14	(14) 横浜国立大学	国	2.9	14	(14) 愛知教育大学	国	4.6	14	(15) 兵庫県立大学	公	2.8
15	(13) 埼玉大学	国	2.8	15	(15) 愛知淑徳大学	私	3.9	14	(22) 和歌山大学	国	2.8
16	(18) 駒澤大学	私	2.7	16	(20) 名古屋外国語大学	私	3.1	16	(16) 大阪教育大学	国	2.7
17	(21) 専修大学	私	2.6	17	(18) 金城学院大学	私	2.8	16	(12) 京都産業大学	私	2.7
17	(14) 筑波大学	国	2.6	17	(16) 静岡県立大学	公	2.8	18	(18) 武庫川女子大学	私	2.5
19	(14) 東京大学	国	2.5	19	(19) 椋山女子学園大学	私	2.6	19	(18) 佛教大学	私	2.2
20	(27) 東京農業大学	私	2.4	20	(17) 常葉大学	私	2.5	20	(21) 同志社女子大学	私	2.0

※志願度＝高校所在地が各エリアにある高校生の「志願したい大学」(質問紙で4校まで選択) ※括弧内は昨年順位
※区分の略称は以下のとおり 国/国立 公/公立 私/私立

キャンパス移転や学科新設がカギ 景気回復をうけ、私学志向強まる

今回の調査では、関東エリアの首位は明治大学(6年連続)、関西エリアは関西大学(7年連続)、東海エリアは名城大学となった。関東エリアの明治大学は、都心へのキャンパス移転、総合理学部の新設、入試改革等、中長期的に改革を推進。芸能人やスポーツ選手の入学も相次ぎ、「バンカラ」なイメージが変化した。

関西大学は、志望理由の自由回答では「有名」「行きたい学部・学科がある」など、知名度やキャンパスの立地、網羅する学問分野の豊富さなどを挙げる高校生が多かった。

長年トップを走る両大学に共通しているポイントの一つは、志願者の「偏差値帯の広さ」ということである。2008年のリーマンショック以降、経済的な理由から浪人できない高校生が増え、「憧れ校よりチャレンジ校」というように、高い目標を掲げない高校生が増加している。頑張れば手が届きそうな範囲の学校という意味で支持されているのである。

東海エリアは昨年まで名古屋大学がトップであったが、今年は私立の名城大学が2008年から6年ぶりにトップとなった。この調査では別途、国

公立大学、私立大学どちらに行きたいかを聞いており、経年で見ると、長引く不況のなかで国公立志向が強まっていたが、景気回復基調をうけ、今年関東・関西・東海すべてのエリアで私学志向がやや強まっている。

全体的にランキングを上げた大学の多くはキャンパス移転や学部・学科の新設を行っており、こうした大学改革の動きが高校生の志願度アップに影響を与えている。先述した名城大学も、2016年に向けナゴヤドーム前キャンパス開設と外国語学部(構想中)の新設を予定。2015年に農学部を新設予定の龍谷大学も、関西エリア理系の志願度が昨年22位から13位へと大きくランクアップ。

また、イメージ項目ランキングで、関東エリアの「国際的なセンスが身につく」で4位から1位にアップした上智大学は、2014年に総合グローバル学部を新設。高校生の志望理由でも、「グローバル」「国際的」というキーワードが多数見られた。

時代の流れに合わせて大学の教育や高校生の志向が変わりつつある。社会を広く知る保護者や高校の先生の客観的なアドバイスも、今後ますます重要となるだろう。